



多くの恵みをもたらす山田湾
水産振興のため、磯資源の増
殖策も大きな課題です



生駒利治議員

漁業振興

アワビ種苗生産施設の公設民営

要請があれば真摯に受け止める

質問 町内の漁協では、アワビ稚貝の放流拡大を検討しているようである。

そういう中で、自前の生産施設を持てば安価で大量の稚貝が入手でき、アワビ養殖漁業も併せて推進できるのではないかと考える。ぜひ、町が設置主体となり進めることができるか。

沼崎町長 大規模施設による種苗生産は、コストダウンが図られるものの、年間経費は数千万円のレベルとなり、各地区とも経費負担に苦勞していると聞く。本町の場合、現下の財政状況に照らして、町が施設を整備できる状況ではない。また、運営に係る経費を、関係漁協が長期にわたって負担できるのかという問題がある。

財務改善と合併協議が進められている中で、新たな施設整備は、関係漁協、系統団体、県との協議が必要であり、それを前提として資源増殖策を検討しなければならぬ。

町の考えを聞く



カキの耳つり作業の様子（大沢の養殖漁家）

漁業者支援

養殖漁業者への補助制度新設

多岐にわたって支援している

質問 高齢化が進む養殖漁家の中では、養殖施設、資材の更新時期がきても後継者問題もあり、資金の調達に苦慮している。

沼崎町長 本年度、野田村では、県内に先駆けて養殖漁業者を

支援する村単独の補助制度をスタートさせるようである。本町でも、この制度を取り入れ、養殖漁業者の経営意欲の向上を促すことが必要と思うがどうか。

沼崎町長 野田村の補助制度は、漁業者個人を対象とするものと聞いているが、行政としてどのような支援が必要かの判断は、地域の漁業形態や直面する課題によつて決められると考える。

本町が行っている養殖漁業者への支援は、特定養殖共済掛け金の補助、ノロウイルスの研究、カキ殻等貝殻の処理、イベント開催の販売支援、漁協の財務改善支援など多岐にわたっており、これらの支援策を漁業経営に生かしていただきたいと考える。